

第6学年 体育科学習指導案

令和2年〇〇月〇〇日〇曜日〇校時

児童数(男子〇〇名、女子〇〇名)

場所

指導者

1 単元名 体づくり運動(体の動きを高める運動)

2 単元の目標(第5学年及び第6学年の2学年分)

- (1) 体づくり運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすることができるようにする。
 - ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりすることができるようにする。
 - イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすることができるようにする。 (知識及び技能)
- (2) 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 運動の一般的特性

高学年の体づくり運動は、「体ほぐしの運動」及び「体の動きを高める運動」で構成され、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、中学年までに身に付けた体の基本的な動きを基に、体の様々な動きを高めるための運動である。

高学年では、手軽な運動を行うことを通して自己や仲間の心と体との関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりするとともに、低学年・中学年での多様な動きをつくる運動(遊び)を踏まえ、体の動きを高める運動の行い方を理解し、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めて中学校での体づくり運動の学習につなげていくことが求められる。

4 児童の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本学級の児童の多くは、男女ともに昼休み時間に外に出て体を動かしている。毎日のように運動する児童とそうでない児童の個人差が見られるものの、みんなで遊ぶことや体を動かすことが好きな児童は多い。日頃休み時間に運動していない児童でも、係が企画して行う学級全員遊びには積極的に参加している。これまでの体育学習を通して、楽しみながら運動する経験を積んでおり、1学期前半で行った器械運動の単元では、鉄棒や跳び箱等において毎時間少しずつできるようになっていることを喜ぶ姿も見られた。その一方で、課題が解決できなかったり、必要な技能を身に付けることができなかつたりしたことで、悔しい思いをしてきた児童も数名見られた。

(2) 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

これまでの学習を通して、「知識及び運動」に関しては、心と体は関係していることを学んだり、体づくり運動は体ほぐしの運動と体の動きを高める運動から構成されていることを理解したりしてきた。さらに、これまで行った体づくり運動の学習の中で動作や人数などの条件を変えて、友達と関わり合いながら運動してきている。その中で、ペアでのストレッチにも取り組んでいるが、まだ体の柔らかさや巧みな動きなどが高まっている状況にはない。

また、「思考力、判断力、表現力等」に関しては、課題の解決のためにはどうしたらいいのかを考えたり、話し合ったりする活動を重ねてきた。ボール運動の学習では、チームの特徴に応じた作戦を選んだり、練習を行ったり、ルールを工夫したりして学習に取り組んできた。またどの分野の運動においても、友達の動きのよさに注目して、動きのコツをつかむように言葉かけを行ってきた。

そして、「学びに向かう力、人間性等」に関しては、「すばやい集合」「安全確認」「みんなで協力」など体育科学習を進めていく上で重要な集団行動の心構えを意識して行動するようにしている。体育の授業をみんなで盛り上げるために、友達とコミュニケーションを図ったり、プラスの言葉かけの良さに気付いたりできる児童も増えてきた。また、子供同士で声をかけ合ったり、考えたことを交流したりするなど、互いの考えを認め合う機会を設けて学習に取り組んできた。

(3) 体力の習得状況

5 学習を進めるに当たって

そこで本単元では、体の動きを高める運動の中でも、「巧みな動きを高めるための運動」に重点を置いて「用具などを用いた運動」を主運動として行い、その能力を高めていきたい。単元のはじめに、高める4つの体力の要素について全体で共通理解させ、指導に当たりたい。また、この4つの要素はそれぞれが関連し合っていることについても理解させた上で授業を展開していきたい。

単元を構成するにあたって、「ペアで個人の課題に取り組んでいく活動」「全員で共通の運動に取り組む、課題を解決していく活動（めあて1）」「グループごとに運動の組み合わせを工夫し、動きを高めていく活動（めあて2）」を位置付けていく。単元の前半では、「全員で共通の運動に取り組む、課題を解決していく活動」に、後半では、「グループごとに運動の組み合わせを工夫し、動きを高めていく活動」に重きを置き授業を進めていく。学習形態としては、ペア（個人）→全員→グループという展開になっていくようにする。

導入で行う「ペアで個人の課題に取り組んでいく活動」では、運動事例集（ひなたプログラム）から児童の実態に即して、教師がピックアップしたものから児童が選択したり、設営されている場の中から選択したりして動きを高めていけるようにする。授業前半の「全員で共通の運動に取り組む、課題を解決していく活動」では、「移動式長縄運動」という、回し手が移動しながら縄を回し、その縄の動きに合わせて周りが跳ぶ運動に全員で取り組んでいくようにする。その過程で、運動のポイントや動きの高まりについて児童が考えたり意識できたりできるようにしていく。また、楽しみながら自分の動きの高まりを実感させるようにもしていきたい。授業後半の「グループごとに運動を工夫し、動きを高めていく活動」では、「縄プラスその他の用具」という条件で授業を進める。2つ以上の用具を扱いながら運動をするこ

とで、児童が自ら動きの高まりを実感できるようにしながら、動きの質の高まりを期待したい。その際、児童が取り組んでいる運動について、どのような動き方や意識、感覚が大切なのかという運動のポイントについて全体で共有する機会を設けたい。教師からの発問だけではなく、児童同士が例示して見せたり、言葉で伝えたりするなどする場を設け、気付きや考えの交流も促したい。また、学習カードは単元を通して、感じたことや考えたことを言葉でまとめるだけでなく、自己の考えを深めたり友達の考えを理解したりすることができるように工夫したい。学習カードの中に、自己評価として動きの高まりに関するレーダーチャートを用いることで、児童自身が動きの高まりを視覚的に実感できるだけでなく、レーダーチャートを根拠に図や絵を用いながら振り返りを記入することで、思考力、判断力、表現力等の高まりにもつなげていきたい。さらに、学習カードでの振り返りにより自分の課題が明確化されていくことで、次時以降、自分から新たな動きを獲得してこうという主体的な学びへのつながりも期待したい。単元の終わりでは、これまで取り組んできた運動の中から選んだり、他者との交流の中から新たに思いついた動き等をグループごとに選択させたり、動きの質を高めていく活動を取り入れる。児童が主体的に運動を選択し、これまでの経験や学習してきた運動のポイントを意識させたり、これまでの動き方と比較させたりすることで、実感を伴うような質の高い運動ができるようにしたい。

本時においては、学習の初めにペアごとに個人の課題を達成するための運動を行う。その際、運動事例集（ひなたプログラム）から参考になる運動を選択して応用したり、設営された場の中から選択したりしながら、児童が主体的に運動に取り組めるようにしていきたい。次に、めあて1では全員で共通の運動に取り組み、課題を解決しながら個人の動きを高める。児童の発言や動きのポイントを学級全体で共有しながら授業を進めたい。そして、めあて2ではグループごとに運動を工夫して行い、動きを高めることができるようにしたい。活動中には、適宜、運動のポイントなどを学級全体で共有させながら、たくさんの運動のポイントを見付けることができるようにしたい。授業の最後には、まとめとして学習カードを活用し、学習を通して気付いた言葉がけや工夫した条件、自分が考えたことや感じたことを絵や図、文に表現して友達に伝える時間や振り返りの時間を確保したい。この時、選んだ運動がどのような動きを高めたのか意識できるように言葉がけをする。

カリキュラムマネジメントの視点から、単元の前に保健学習における「心の健康」や「けがの防止」の学習を進めておく。それにより、児童が体づくり運動を学習する意義をより一層理解し、スムーズな導入につながるようにしたい。道徳科においても事前に「あきらめない心」や「相手を理解する心」などについて学習することで、学習中における自己や他者との関わり方の工夫につながり、体育科及び道徳科相互に効果が高まることを期待する。単元途中や単元後も同様に、保健学習の「病気の予防」をはじめ、道徳や特別活動においても体づくり運動の単元を振り返りながら学習活動を進めることで、教科横断的な学びが実現するよう指導を進めていきたい。

6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	<p>次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりしている。 ・体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をしている。 	<p>自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。</p>
単元の評価規準	<p>①体力の必要性や体の動きを高めるための運動の行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>②長縄を用いて回旋の仕方や跳ぶリズム、人数などを変えていろいろな跳び方をしたり、縄跳びをしながらボールを操作したりすることができる。</p> <p>③人や長縄の動きに合わせ、用具をコントロールしながら投げ、捕る、回す、転がすなどの操作をすることができる。</p>	<p>①自己の体力の状況を知ったり、体の様々な動きを試したりすることを通して、体の動きを高めるためにどのような運動に取り組むとよいか、自己の課題を見付けている。</p> <p>②ICT 機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫している。</p> <p>③グループで工夫した長縄跳びをしながらボールを投げたり捕ったりする運動の行い方を他のグループの仲間に例示して見せたり、言葉で伝えたりしている。</p>	<p>①体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②運動を行う際の約束を守り、仲間と助け合おうとしている。</p> <p>③運動の行い方について仲間の気付きや考え、取組の良さを認めようとしている。</p> <p>④運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配っている。</p>

8 本時の学習(6/7時間)

(1) 本時の目標

- どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫することができるようにする。(思考・判断・表現)

(2) 本時の評価項目

- どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫している。(思考・判断・表現)

9 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価項目 (評価方法) 【Aの例】	「努力を要する」 状況と判断される 児童への手立て
はじめ 10	1 集合、整列、挨拶、健康観察、準備運動を行う。 2 ペアになり、個人の課題となる運動を選び、やってみる。 ・ 体の柔らかさや力強い動きを高めるための運動 ・ 音楽に合わせて運動	・ 運動事例集や、設営されている場の中から、個人の課題となる運動を選べるようにする。		
なか 28	3 本時のねらいと学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">動きのポイントを意識しながら、運動を工夫しよう。</div> 4 全員で共通の運動に取り組み、動きを高める。 ・ 移動しながら長縄 5 グループごとに工夫して、組み合わせの運動を行う。 ・ 長縄プラス用具 6 体の動きを高めるための動き方をグループで工夫し、それを解決するために話し合う。 7 話し合ったことを生かして、再度挑戦する。 (5～7の活動を適宜繰り返す。)	・ 児童が動きを高めることを中心に考えたり実践したりできるように、条件や負荷を変えていくよう助言する。 ・ 児童の出来栄を観察し、適切に助言することで、児童が運動に進んで取り組むようにする。 ・ 動きを高めるために、仲間同士で動きを見合い教え合うことも大切にする。 ・ 状況に応じて、活動を止め、発問をしたり、児童同士で意見を交流したりできる場や時間を設定する。	○ どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫している。 (観察・カード) 【Aの例】 個人やグループの課題に応じて自分なりにさらに工夫しようとしている。	友達のよい動きを見付けたりすることや、条件を変えることについて教師が具体例を挙げて考えさせる。
まとめ 7	8 本時の学習を振り返る。 ・ 学習カード記入 ・ 全体で意見交換 ・ 次時の予告	・ 学習を通して気付いた言葉かけや条件、良かったこと、考えたこと、感じたことを絵や図、文にまとめた後、発表させ、次時の活動への意欲向上を図る。 ・ 選んだ運動がどのような体の動きを高めたのか意識できるよう声をかける。		